教育委員会

学校だより

今学校には、豊かな生活体験や社会体験、自然体験などの機会が得られるよう、地域の教育力をいかした学校づくりが求められています。安飾小学校では、地域の方々の協力を得て、交流をとおして児童たちに多くのことを学んでもらおうとさまざまな体験活動を行なっています。

多くの体験を通して経験を積む学校 安飾小学校

安飾小の祭

「安飾まつり」は、学校と公民館が共同で企画・運営を行ない、餅つきや会食、そば打ち体験などをとおして、学校と保護者、地域の方々との結びつきを深めています。

児童たちは、地域の方々と共に普段の生活の中ではなかなか体験できなくなったそば打ち体験や抹茶体験、メンコやビー玉を使った伝承遊びなどをとおして多くのことを学んでいます。見ているだけではわからないことが、体験をとおして理解できる楽しい一日となります。

運動会

地区公民館との共催行事として「安飾大運動会」を行なっています。

今年も9月22日(土)に、多くの地域の方々と保護者参加のもと、第12回安飾大運動会が開催されました。

開催までには、児童たちが活躍できて思い出に残る運動会になるよう、地域代表の方々に何回も会議を持っていただきました。

当日も、児童には難しい準備や片付け、競技への参加に協力をいただき、お互いの交流を深めながら共に働き、楽しくそして盛大な運動会が実施できました。

栽培活動

学校農園では、各学年ごとに思い思いの野菜づくりを実施しています。その際に児童の保護者や祖父母を対象に栽培支援ボランティア「畑の先生」を募集して、野菜の基本的な栽培方法をご指導いただいています。

保護者や祖父母の協力を得ながら児童たちは栽培活動をとおして、野菜の育て方を覚えたり、収穫の喜びを感じたり、多くのことを学んでいます。

交流会

平成16年度から4年生を中心に、東京都板橋区立志村小学校との交流教室を行なっています。

昨年度は、志村小学校を訪問し、地下鉄に乗って地域を散策したり、学習発表を聞いたり、ゲームをして遊んだりと有意義な時間を過ごすことができました。普段安飾小学校の児童だけでの生活に慣れている児童たちには、他校の児童とのふれあいは、とても新鮮であり、たくさんのことを学ぶよい機会でもあります。

本年度は、10月25日(木)に志村小学校の4年生児童51人を招いて、富士見塚古墳散策をしたり、学校農園で育てたサツマイモを掘ったり、給食を一緒に食べたりして交流を深める予定です。

ふるさとの年中行事

恵比寿講

旧暦10月20日

神様の留守を預かる恵比寿様への信仰

旧十月二十日は、恵比寿様を祀る日です。恵比寿様は、現在では一般に七福神の一員としての福の神であるとイメージされていますが、それは鎌倉時代以降の信仰です。

エビスを称する神は、イザナギ・イザナミの子である蛭子命か、もしくは大国主命（大黒様）の子である事代主神とされることが多く、古事記や日本書紀の記載内容に基づき水の神や釣竿を持った容姿として表現されるようになりました。また、商売繁盛の神としての信仰も鎌倉時代以降の商業の発展に伴ってからであり、そのころから七福神信仰と結びついたとされています。

恵比寿講は、十月（神無月）にほとんどの神様が出雲に出かける時期に留守を預かる留守神として恵比寿様を祀り、一年の無事を感謝する民間行事または秋祭りをいいます。

市内では以前、当番制で当家があり、そこの家に集まって共同飲食をしましたが、現在は神棚や床の間に恵比寿様を祀り、魚（鮒が多い）や貨幣を入れた桝を供えて、富貴繁栄を祈る形が多くなりました。この日は、なるべく金銭を使わないで、物が入ることを縁起が良いといって喜ぶ風習がありました。

恵比寿講に使用される掛け軸

※郷土資料館ホールに12月上旬まで展示中

文芸ひろば

俳句

直角に曲る木道蓮の実　大西　周（稲吉東）

沢音の小さな流れ鬼やんま　石平周蛙（市　川）

青瓢真白き子犬生まれたり　萩原初枝（上土田）

吹かれては戻る蜻蛉の好きな枝　斉藤嘉代（稲吉南）

実石榴の割れより覗く鬼子母神　車田きみ（大和田）

秋入日漁船の艪の鉄の錆　小松崎正栄（戸　崎）

刈られしの田んぼ彩る曼珠沙華　福田宏通（御　殿）

たらちねの無花果甘き日も遠し　松葉ふみ（内加茂）

おみなえし色香も淡く咲き初めぬ　塚田甲子郎（下稲吉）

短歌

山脈は霧をまとひて淡く見ゆ墨絵の如く曇る梅雨の日　田中好子（下稲吉）

厳かに夏越の神事形代にけがれを移し茅の輪潜りぬ　大西　周（稲吉東）

手入れなき梨の畑の静かさよただ夏草の荒れ繁るなり　中島良平（稲吉東）

庭石に根付きし岩松ひさびさの雨にみどりの甦りきて　中根美子（下土田）

刻の間をこころ放ちてただに佇つ炎ゆるが如き夕映えの中　小貫弘子（牛　渡）

にがうりの花の香りに染みて佇つ成長早き夏の日の朝　飯島ヒロエ（三ツ木）

炎熱に村はひっそり人見えず百日紅の目立ち咲きをり　鈴木春雄（戸　崎）

取入れの終いし刈田に風も凪ぎ藁焼く煙幾條か立つ　石塚延夫（上土田）

夏椿のあまた青き実台風にうなだれ頭を振る雨風はげし　川原場好子（上佐谷）